

令和3年3月22日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 愛知県名古屋市中区栄1-14-32
管理機関名 学校法人名古屋石田学園
代表者名 石田 正城

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月10日（契約締結日） ～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 星城高等学校
学校長名 四方 元
類型 グローカル型

3 研究開発名

『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト』
～新たなコミュニティーを協創できるスーパーグローバル・リーダーの育成～

4 研究開発概要

人と人との繋がりが希薄になりつつある地域社会において、さまざまな立場の市民の交流が活性化する新たなプロジェクトを共生・協働という観点から協創できる地域リーダーの育成を研究開発の目的とする。本校が立地する愛知県豊明市は外国人市民と高齢市民の増加が顕著で、それらへの対応が地域全体の大きな課題となっている。そのような現状を踏まえて、今回の研究開発では「外国人市民との多文化共生を推進する地域活動」と「高齢市民との安心・安全な健康生活づくりを協働する地域活動」に取り組む。

この活動を通して、外国人市民と高齢市民がより輝く新たなコミュニティーの形成を目指す。この活動の名称はスーパーグローバル・リーダー (Super Glocal Leader) 育成活動とし、その略称は「SGL活動」とする。また、地域協働コンソーシアム全体で共有するSGL活動のスローガンとして、『Rainbow Bridge Project! - Think Globally, Act Locally -』を掲げる。すべての市民が輝く新たなコミュニティーを協創できるグローバル・リーダー育成のために、課題探究のテーマを「外国人市民と高齢市民が輝く

新たな架け橋づくり」に設定し、「多文化共生」・「健康福祉」・「コミュニケーション力」の3つの探究学習アプローチで構成される教育課程を研究開発する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
渥美榮朗	元愛知県教育長	学識経験者
寺田志郎	元愛知県教育委員会学習教育部長、 元県立高校長会会長	学校教育に専門的知識を 有する者
久野弘幸	名古屋大学大学院准教授	教育学研究者
月岡修一	豊明市議、学校評議員	有識者
藤井和久	豊明市役所行政経営部長	関係行政機関の職員

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

[多文化共生コンソーシアム]

機関名	機関の代表者名
豊明市役所	市長 小浮正典
豊明市教育委員会（市内小中学校を含む）	教育長 伏屋一幸
豊明市国際交流協会	会長 石田英城
星城大学経営学部	学長 赤岡 功
ARMS 株式会社	代表取締役会長 濱島正好
県立豊明高等学校	校長 鈴木正博
豊明市商工会	会長 兼子 忠男
豊明青年会議所	理事長 酒井 雄矢

[健康福祉コンソーシアム]

機関名	機関の代表者名
豊明市役所	市長 小浮正典
豊明市教育委員会（市内小中学校を含む）	教育長 伏屋一幸
豊明市社会福祉協議会	会長 加藤 誠
星城大学リハビリテーション学部	学長 赤岡 功
株式会社スギ薬局	代表取締役社長 杉浦克典
県立豊明高等学校	校長 鈴木正博
豊明市商工会	会長 兼子 忠男
豊明青年会議所	理事長 酒井 雄矢

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	該当者なし		

海外交流アドバイザー	古藪 真紀子	名古屋大学大学院国際 開発研究科学術研究員	非常勤 (週 1 回程度)
地域協働学習支援員	古藪 真紀子	名古屋大学大学院国際 開発研究科学術研究員	非常勤 (週 1 回程度)

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
豊明市関係者との協議	1回		1回		1回		1回		1回	
コンソーシアム会議開催 (オンラインを含む)						1回			1回	
文部科学省とのオンライン 会議への出席		1回					1回		1回	
コンソーシアム協定書締結	1回									

(2) 実績の説明

- 管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成、カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について
管理機関である名古屋石田学園と豊明市が長年にわたり築き上げてきた強固な信頼関係をもとに、本事業における地域協働活動への協力について豊明市やコンソーシアム構成機関と定期的に協議を重ねてきた。コンソーシアムについては多文化共生分野と健康福祉分野のダブルコンソーシアムを構成した。また、海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員1名を非常勤講師として雇用し、海外研修（オンラインツアー）の企画開発や探究学習のカリキュラム開発について、本事業を担当する教員を支援した。
- 管理機関による主体的な取組について
2か月に1回程度、豊明市長または市幹部職員と本事業についての意見交換を行った。コンソーシアム会議を開催し、本事業についての意見交換と地域協働活動について協議した。
- 国費に上乗せした独自の支援や取組の実施
担任用 iPad の購入し、ICT 環境を整備した。また、生徒が地域で活動する際に必要な市内交通費を負担した。
- 継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮等
管轄部署を立ち上げ、各コースに主任を配置した。
- 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について（該当するなら）
コンソーシアムを構成するすべての関係機関と本事業での取組に関する協定書を締結した。今年度は新たに豊明市商工会と豊明市青年会議所がコンソーシアムに加わり、協定書も締結した。
- 事業終了後の自走を見据えた取組について
管理機関の名古屋石田学園と本事業を実施する星城高等学校は本事業に関わる予算案について協議した。学園創立 80 周年の寄付金項目に本事業への支援項目を設定した。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
ア. SDGs と豊明市の学び	2回	2回	1回							
イ. 子ども日本語教室支援活動					2回	2回	1回			
ウ. 1年生花溢れる街づくり プロジェクト「住民との協議」				1回						
エ. 1年生花溢れる街づくり プロジェクト「花壇作り」				1回	1回					
オ. 1年生花溢れる街づくり プロジェクト「住民と花植え」					1回					
カ. 1年生花溢れる街づくり プロジェクト「住民と交流会」						1回				
キ. 2年生地域協創プロジェクト 「コンソーシアムとの協議」		2回	1回							
ク. 2年生地域協創プロジェクト 「課題解決の啓発素材開発」				2回	2回	2回				
ケ. 多文化共生アラカルト講座						1回				
コ. 1年生探究成果のまとめ作成						2回	2回			
サ. 2年生探究成果のまとめ作成						1回	2回			
シ. SGL 英語 I ネイティブ教員 の授業実践	4回	4回	1回	4回	3回	3回	3回	3回		
ス. SGL 第2外国語の授業実践	4回	4回	1回	4回	3回	3回	3回	3回		
セ. 全国高等学校グローバル探究 オンライン発表会								1回		
ソ. 2年生探究成果発表会								1回		
タ. 1年生探究成果発表会									1回	
チ. ベトナムオンラインツアー									1回	
ツ. カンボジアオンラインツアー									1回	
テ. コンソーシアム会議					1回				1回	

(2) 実績の説明

- ・研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア. 個別の持続可能な開発目標について、世界各国の実例をもとに学ぶ授業とした。

イ. 感染症対策をして外国人児童の学習支援に参加する活動とした。

ウ〜カ. 生徒の主体性を重視し、生徒自らが協働してもらえる下記の団体を探して連絡を取り、依頼・協議・実践などの地域協働学習に取り組んだ。

場所	クラス	班	協働する団体候補	代表者氏名
三崎水辺公園	仰星 1年 1組	A	三崎区寿会（敬老会）	前山邦雄
		B	ふれあい交流会①	矢野達実
		C	ふれあい交流会②	矢野達実
		D	e g a o家①	中野敏宏
		E	JA 豊明たすけあいけやきの会	酒井勝美
		F	e g a o家②	中野敏宏
		G	傾聴ボランティアとよあけ	小菅とも子
前後駅前スクエア	仰星 1年 2組	A	前後区敬老会	榊原優区長
		B	豊明市植物愛好会①	長山加代子
		C	13年すみれ会	中島禎子
		D	NPO おたがいさまのいえいっぷく①	川津昭美
		E	NPO おたがいさまのいえいっぷく②	川津昭美
		F	とよあけ花マルシェプロジェクト	永田晶彦
		G	豊明市植物愛好会②	長山加代子
豊明団地	特進 1年 2組	1	子ども日本語教室（双峰小学校）	近藤
		2	豊明団地ベトナム人会①	チュオン
		3	豊明団地自治会	糸魚川幸江
		4	豊明団地ベトナム人会②	チュオン
		5	星の城幼稚園	石田英城
		6	豊明団地ベトナム人会 ③	チュオン
		7	プラスエデュケート	森 顕子
大蔵池公園	特進 1年 1組	1	桜ヶ丘老人会①	寺澤
		2	落合みまもりたい	杉山辰蔵
		3	桜ヶ丘老人会②	寺澤
		4	豊明市陶芸会	伊神生雄
		5	老人クラブ連合会女性部①	鈴木信子
		6	老人クラブ連合会女性部②	鈴木信子
		7	豊明市陶芸会	伊神生雄

	特進 1年 3組	1	認知症対応型介護施設びいす	志水宏司
		2	桜が丘コミュニティー	江口暢良
		3	NTT 豊明いずみの会・サロン養元	杉山辰蔵
		5	ふれあいサロンあおい会	国富久子
		7	館なかよし会	松井久子
		はざま 公園	4	桶狭間区老人会おけおけクラブ ①
6	桶狭間区老人会おけおけクラブ ②		沖田	

キ〜ク. コンソーシアム構成機関との協働により、下記の多文化性共生・高齢者健康福祉に関する啓発素材を開発し、地域課題解決に取り組んだ。

クラス	班	地域課題解決 啓発素材開発一覧
仰星 1組	A	高齢者向けの料理動画配信
	B	健康的な和食レシピのポスター作成
	C	SNS の活用、多言語対応リーフレットの作成
	D	豊明市立図書館に特設コーナーの設置
	E	ツイッターでLGBT を理解
仰星 2組	A	セロトニンの分泌を促す提案
	B	坂道避けマップの開発
	C	高齢者のコミュニケーションを助けるポスター
	D	運動支援動画、料理動画の作成
	E	認知症予防脳トレの開発
特進 1組	1	高齢者外出支援「カフェ」マップの作成
	2	高齢者健康チェックシートの作成
	3	豊明市ウォーキング支援ポスターの作成
	4	俳句コンテストの開催と高齢市民の参加
	5	高齢者のスマホ活用支援動画の作成
	6	高齢者の活動おたすけパンフレットの作成
特進 2組	1	外国人用ひまわりバス時刻表の作成
	2	外国人市民用市内医療マップの作成
	3	二村台団地を中心とした防災マップの作成
	4	避難所用コミュニケーション支援ボードの作成
	5	外国人児童向け紙芝居『日本の一日』の作成

	6	外国人児童用『あいうえお練習帳』の作成
特進 3組	1	高校生が案内する豊明市紹介多言語字幕動画の作成
	2	TOYOAKE PUBRIC TRANSPORT MAP の作成
	3	豊明市歴史スタンプラリーの作成
	4	「花の街とよあけ」全容マップの作成
	5	豊明ウォーキング&健康グルメマップの作成
	6	「豊明市カルタ」の作成と日本語教室などでの実践

- ケ. JICA 中部の協力で、世界各地の発展途上国で開発支援に携わった経験を持つ講師を 10 人招き、生徒は自分の学びたい講座を選び、各国での課題解決について学んだ。
- コ～サ. 各班 6 分間の Google Slide を用いたプレゼンテーションとし、実際の発表と iPad で
の画面収録の両方のパターンで実施できるように資料を作成した。
- シ. ネイティブ教員による 1 クラス 2 展開で年間を通して実施し、スピーキングを中心とした表現力の育成に取り組んだ。
- ス. 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外部講師を校内に招くことができなかったが、YouTube で公開されているベトナム語講座を活用して、ベトナム語のあいさつ、自己紹介などを学んだ。
- セ. 2021年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会 Glocal High School Meetings 2021を新たに立ち上げ、グローバル型研究指定校・事業特例校・アソシエイト校の中で34校が参加した。
- ソ. 2年生探究成果発表会は各クラス内で実施し、クラス内の優秀発表班を選出した。各クラスの優秀発表を全クラスで共有し、最優秀発表を投票によって決定した。
- タ. 1年生探究成果発表会は各クラス内で実施し、クラス内の優秀発表班を選出した。各クラスの優秀発表を全クラスで共有し、最優秀発表を投票によって決定した。
- チ. ベトナムオンラインツアーではホーチミン市内の歴史的建造物や市場などを現地からの生中継によって案内し、現地での生活習慣や文化などを学んだ。
- ツ. カンボジアオンラインツアーではアンコールワットと周辺施設や市場などを現地からの生中継によって案内し、現地での生活習慣や文化などを学んだ。
- テ. コンソーシアム会議は5月の第1回は休校により中止した。11月の第2回は校内で実施し、第3回はオンラインでの開催となった。
- ・地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）
 - ア. 1年次の総合的な探究の時間として「SGL 地域協創学Ⅰ（2単位）」を設定した。
 - イ. 2年次の総合的な探究の時間として「SGL 地域協創学Ⅱ（2単位）」を設定した。
 - エ. 学校設定教科「SGL 語学」において1年次には学校設定科目「SGL 英語Ⅰ（1単位）」を設定した。2年次には学校設定科目「SGL 第2外国語（1単位）」を設定した。
 - ・地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について
 - 「SDGsの達成に向けた取り組むこと」を共通言語に、各教科・各科目でSDGsの17の持続可

能な開発目標に関連する内容を授業内容に入れ込むことを目標とした。総合的な探究の時間では、SDGsに関して教科横断的に学んだことをもとに、多角的な視点をもって取り組むことが今後の目標となった。

- ・地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制
 - ア. 教育課程に関わることは、SGL 開発部会で立案し、SGL 開発会議で審議した内容を教育課程検討委員会に諮る。そこで決定した内容は運営指導委員会で承認を得た後、最終的に管理機関の理事会にて決済される。
 - イ. 総合的な探究の時間「地域協創学 I・II」の授業内容は SGL 開発部会で立案・協議し、SGL 実行委員会で共有する。SGL 実行委員会は主にクラス担任で構成され、生徒の実情を踏まえて意見を出し合う。それをもとに SGL 開発部主任が授業計画及び内容を修正する。
 - ウ. SGL 開発部主任は定期的にコンソーシアム関係団体の代表者と打ち合わせを実施する。探究的な学びを推進するための企画や活動を協議し、その内容を地域協創学 I・II の授業計画及び内容に反映させる。
- ・学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）
 - ア. SGL 開発会議は校長、副校長、学監、教頭(3 人)、SGL 開発部主任(2 人)で構成される。研究開発の内容や進捗状況を管理職の教員と共有し、授業の実施や生徒の活動への参加について支障が出ないように支援する。
 - イ. SGL 開発部は仰星コース教員 3 名と特進コース教員 3 名の合計 6 名で構成される。授業内容検討と指導案作成の中心的な役割を担うとともに、部員は総合的な探究の時間の授業が円滑に実践されるように、各コース・各学年で中心的な役割を担う。
 - ウ. SGL 実行委員会は学監、教頭(1 名)、SGL 開発部主任(2 名)、該当クラス担任(10 名)、英語科教員 1 名の 15 名で構成される。SGL 開発部会で立案された授業内容と指導案について、生徒の実情と照らし合わせて無理のない探究的な学びになるように改善点を出し合う。それをもとに授業内容や指導案の修正を行う。
 - エ. SGL 開発部主任は SGL 開発会議・SGL 開発部会・SGL 実行委員会を運営し、校内で授業を円滑に実施できるように調整する役割を担う。また、コンソーシアム関係団体の代表者や地域関係者と連絡を取り合い、校外での活動を円滑に実施できるように調整する役割を担う。
- ・カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて
 - グローバルな視点での学びを開発・実践する際の助言者として海外交流アドバイザーを配置し、名古屋大学大学院国際開発研究科学術研究員の古藪真紀子氏にその役割を依頼した。今年度は週 1 回程度来校していただき、オンラインツアーの企画開発に関して助言をいただいた。また、地域協働学習実施支援員も兼ねていただき、地域との協働による探究学習の授業計画やコンソーシアム構成機関とのコーディネートについて支援を行った。
- ・学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
 - ア. 「SGL 開発会議→SGL 開発部会→SGL 実行委員会」という指示系統を明確にすることで方針や指示を正確に現場に伝えることができる。また、「SGL 実行委員会→SGL 開発部会→SGL 開発会議」の順で計画や実践内容などを報告することで、進捗状況や成果、課題などを正確に掴むことができる。

- イ. 各学期にルーブリック評価表で生徒自身による活動内容の自己評価を実施し、その自己評価を集計する。クラス単位、コース単位、学年単位で集計結果を確認することで、生徒の育成状況確認と今後育成に力をより注ぐべき観点のあぶり出しを行う。それを次学期の授業計画に反映させる。
- ウ. 地域協働学習実施支援員と「地域協創学Ⅰ・Ⅱ」の授業計画及び内容について定期的に協議する。「授業内容検討→授業実践→改善点の検討→次の授業内容検討」というPDCAサイクルを継続させることで、「地域協創学Ⅰ・Ⅱ」の授業改善を進める。
- ・カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
 - ア. コンソーシアム会議において、授業内容や活動内容、取組状況を共有し、それぞれについての評価できる点や改善点などの助言をもらう。
 - イ. コンソーシアム団体の職員が授業で各クラス内に入って生徒へ講話を行ったり、各班に助言したりする。また、生徒が助言を求める際に、電話で対応してもらったり、職場に出向いた生徒への対応をしてもらったりする。
 - ウ. 市の広報誌などに本事業の活動内容などを掲載する
- ・運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

SGL 開発会議での研究開発の内容や進捗状況、コンソーシアムを構成する機関との協力体制の実情、SGL 実行委員会での授業実践状況などを踏まえ、それぞれの専門的な立場から改善すべき点についての指導や学びを促進させるための助言をする組織として運営指導委員会を設置した。学識経験者、学校教育に専門的知識を有する者、教育学研究者、有識者、関係行政機関の職員を含む5名で構成され、各学期に1回開催した。
- ・類型毎の趣旨に応じた取組について

グローバル型における探究的な学びを確立するために、次のように定義した。グローバルの探究的学びは「Think Global(TG探究)」・「Think Local(TL探究)」・「Act Local(AL探究)」・「Act Global(AG探究)」の4つの観点で学ぶこと。そして学びのスタートを常に「Think Global(TG探究)」と設定し、グローバルな視点を持って地域課題解決に臨んだ。また、これらの4つの観点を組み合わせたグローバルな学びを授業として組み立てることで地域との協働による探究学習のカリキュラム開発を行った。
- ・成果の普及方法・実績について
 - ア. 毎授業後に、探究学習の様子を学校公式ホームページのブログで公表した。
 - イ. 啓発素材開発物のデータと探究成果発表の動画を学校公式ホームページで公表した。
 - ウ. 全国高等学校グローバル探究オンライン発表会を開催し、各開発校の取組を共有する場をつくった。

1 1 目標の進捗状況, 成果, 評価

【目標の進捗状況】

- ア. 地域協働活動に取り組む生徒の数は参加率 100%を目標にしている。1年生では花溢れる街づくりプロジェクトに全生徒が参加した。2年生では地域協創プロジェクトに全生徒が参加し、地域課題解決の啓発素材を開発した。
- イ. 海外研修参加率は100%を目標にしている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により海外渡航が禁止されたため、海外研修は実施できなかった。
- ウ. 地域協働活動の中で関わる高齢市民と外国人市民の数は、150人を年間の目標としている。今年度は合計236人の高齢市民と外国人市民が生徒との地域協働活動に参加した。

昨年度の394人には及ばなかったものの、目標人数を大きく上回った。

【成果】今年度最も重点を置いたのは生徒の主体性を尊重することである。1年生の花溢れる街づくりプロジェクトでは生徒が自ら市内の市民団体などを調べ、協力を依頼することから花壇への花植え活動まで生徒主体の活動となった。2年生の地域協創プロジェクトでは、地域課題の発見や啓発素材のアイデア出し、コンソーシアム団体へのインタビューや協働での開発など生徒が主体的に活動する学びとなった。生徒が主体的に地域住民との協働による活動に取り組むことによって、生徒の主体性だけでなく、協働性の育成にも効果があったと言える。また、文部科学省共催による全国高等学校グローバル探究オンライン発表会を新たに立ち上げ、生徒の探究成果発表の場をつくり、各開発校の生徒と学び合う大会をつくりあげることができた。

【評価】1年生の花溢れる街づくりプロジェクトは地域住民から感謝の言葉をかけられることがとにかく多いことから、地域住民から評価されていると思われる。昨年度よりもより多くの地域住民が関わったため、活動についての地域住民の理解が広がっていると思われる。2年生の地域協創プロジェクトでは、豊明市役所幹部職員から高い評価をもらっている。本来は市が取り組まなければならない地域課題解決を高校生の視点で取り組み、啓発素材開発物というかたちでの探究成果の提供は市としてそれらを活用できる可能性が高く、市の公式ホームページなどで市民への発信もしていきたいという反応があった。そして、新たに立ち上げた全国高等学校グローバル探究オンライン発表会は参加校や大会関係者に大変好評であった。

<添付資料>目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

【課題と改善点】

- ア. 「主体性」・「協働性」・「探究力」・「発信力」の4つを生徒育成の観点としている。生徒の「主体性」と「協働性」の育成については一定の成果をあげることができたと思われる。しかし、「探究力」の育成には課題が残っていると感じる。つまり、探究や調査の深さが十分でない。調査の方法や探究の視点についての学びを授業の中に組み込む必要がある。また、自分の考えを発信したり、探究成果を発表したりする「発信力」について、ループリックによる自己評価が他の項目と比べて高くなかった。ただ発表を経験させるだけでなく、発信力を高める手法などの学びを授業の中に組み込む必要がある。そして世界へ発信していく姿勢を身に付けるための取組を考え、それを実践することが求められる。
- イ. 次年度も海外研修が実施できるかは不透明である。海外に行けない場合でも、どのように海外との交流を企画するか、またどのようにグローバルな視点での学びを企画するかについて、新たな工夫が必要となる。
- ウ. 次年度も全国高等学校グローバル探究オンライン発表会を開催し、各開発校が探究成果を発表し合い、学び合う場をつくる。

【担当者】

担当課	星城高等学校	TEL	0562-97-3111 (代)
氏名	伊藤 泰臣	FAX	0562-97-2015
職名	学監	e-mail	ito.yasuomi@seijoh.jp